

第 3 回水稲病害虫発生予察結果(伊豆市内)

4 月下旬田植えの早生品種（コシヒカリ・キヌヒカリ等）

【稲の生育状況と田んぼの管理について】

4 月下旬に田植えをした早生品種の圃場では、生育の早い茎の内部に幼穂（穂のもとになる部位）が確認できました（幼穂の確認方法は下記に記載）。幼穂が確認できる田んぼについては、生育に水が必要となりますので、中干しを終了して間断灌水（間断灌水の方法については下記に記載）に移行してください。

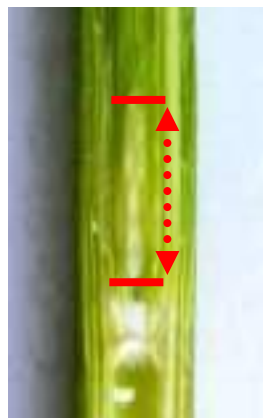
近年、気候が不順なため慣行「例：毎年この日にやっているから、手引書に書いてあるから」などの管理を行うと、今後の天候・気温によっては薬剤散布のタイミングや刈取りのタイミングを逃してしまうリスクがありますので、田んぼの状況に応じた作業管理をしてください。

【幼穂の確認方法】

1. 株の中で一番長い茎を株元から抜く。
2. カッターで茎を上から真半分に切る。



3. 幼穂（白く伸びた穂のもとになる部分の長さを図る。）

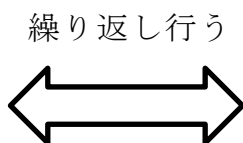


幼穂の長さ	出穂前日数
0. 1cm	25日
0. 5cm	20日
1. 5cm	18日
5. 0cm	12日

【間断灌水の方法】



水を張った状態



水が減り表面が見える状態

【穂肥について】

元肥一発肥料を使用していない方は、穂肥の施用が必要となります。穂肥のタイミングは幼穂が0.5cmから1.5cm程度になったら施用します。穂肥は1回目と2回目に分けて行いますが、1回目の穂肥を施用した1週間後に葉が濃い緑色をしている場合は、2回目の穂肥を施用する必要はありません。

穂肥の施用のタイミングと、施用量は下表をご確認ください。

《穂肥（マップ456）施用基準》

幼穂の長さ	出穂前日数	回数	施用量
0.5cm	20日前	1回目	20kg／10a
1.5cm	18日前		
5.0cm	12日前	2回目	10kg／10a



【病害虫の発生状況について】

今回の調査では病害虫の発生は見られませんでした。今後カメムシは多くなると予測されております。今後の予察結果を踏まえて対応をしてください。

5月下旬田植えの中生・晩生品種（きぬむすめ・あいちのかおり SBL 等）

【稲の生育状況と田んぼの管理について】

きぬむすめなどの中生品種では分けつ数が20本程度となっているため、中干しのタイミングとなっております。あいちのかおりなどの晩生品種では現在1株の分けつ数が16本程度となっておりますので20本程度になりましたら中干しを行ってください。中干しは穂がつかない無駄な分けつを抑える効果や、土の中の有害なガスを抜き、根に酸素を与える効果があるため、田んぼに軽くヒビが入る程度（下の図参照）まで行ってください。



丁度いい中干しの状態



干しすぎたことにより
根の切断が起きている

【病害虫の発生状況について】

今回の調査では病害虫の発生は見られませんでした。今後カメムシは多くなると予測されております。今後の予察結果を踏まえて対応をしてください。

**前回の予察結果・栽培管理は
こちらからご覧になれます！
次回予察予定 7月1日
（雨天中止）**



作成日：令和7年6月26日

J Aふじ伊豆修善寺営農経済センター

担当：竹村

電話：0558-72-4461